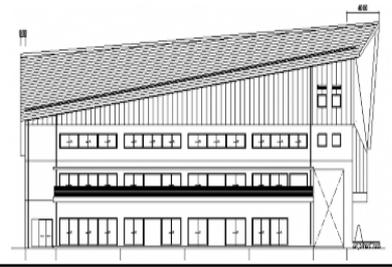


CASBEE[®] さいたま2016年版

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浦和実業学園中学校・高等学校 新1号館 新築工事	階数	地上4F
建設地	さいたま市南区文蔵3丁目385番地 外32筆	構造	RC造 一部S造
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年3月18日
敷地面積	(仮想敷地)1660 m ²	作成者	サイト一級建築士事務所 齊藤祐子
建築面積	1,164 m ²	確認日	2022年3月18日
延床面積	3,140 m ²	確認者	サイト一級建築士事務所 齊藤祐子



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 87%</p> <p>③上記+②以外の 87%</p> <p>④上記+ 87%</p> <p>0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.2</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内及び供用部は、バリアフリーに配慮 近隣への騒音対策を考慮 北側住宅への日照、景観に配慮したデザイン 北側道路側に公共的な歩行空間として、開放通路を計画 	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>歩道上空地スペースの確保や、夜間照明の設置等地域性に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たすなど周辺環境へ配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
浦和実業学園中学校・高等学校 新1号館 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.40			3.0
1 音環境						3.8	0.15			3.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40			
1.2 遮音						4.6	0.40			
1 開口部遮音性能		サッシ遮音性能T-2以上				5.0	0.53			
2 界壁遮音性能		2F 音楽室2 Dr-40				4.0	0.20			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		2F 音楽室2 Lr-40				5.0	0.14			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		2F 音楽室2 Lr-55				4.0	0.14			
1.3 吸音		2F 音楽室2 天井:ロクウール化粧吸音板、壁:ロクウール吸音材				4.0	0.20			
2 温熱環境						2.4	0.35			2.4
2.1 室温制御						2.7	0.50			
1 室温						3.0	0.53			
2 外皮性能						3.0	0.35			
3 ゾーン別制御性						1.0	0.12			
2.2 湿度制御						1.0	0.20			
2.3 空調方式						3.0	0.30			
3 光・視環境						2.5	0.25			2.5
3.1 昼光利用						2.4	0.30			
1 昼光率						2.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレア対策						4.0	0.20			
1 昼光制御		遮光カーテンと庇を組み合わせて制御している				4.0	1.00			
3.3 照度		2F 音楽室2 設計照度568lx				4.0	0.17			
3.4 照明制御						1.0	0.33	3.0		
4 空気環境						4.0	0.25			4.0
4.1 発生源対策						4.0	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用				4.0	1.00			
4.2 換気						3.3	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上				4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33			
4.3 運用管理						5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						-				
2 喫煙の制御		全館禁煙としている				5.0	1.00			
Q2 サービス性能						-	0.30			3.1
1 機能性						3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40			
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画						3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30			
1 広さ感・景観						1.0	0.34			
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している				5.0	0.66			
1.3 維持管理						2.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		天井:化粧石膏ボード:30年、壁:吹付仕上:20年、床:ビニル床シート:20年				2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:SUS:C、汚水、雑排水:塩ビ:B、Eは不使用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						2.8	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						3.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			3.5	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.41	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 学校0.16、集会所0.19	4.0	0.59	-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重 学校2,900N/㎡以上、集会所3,500N/㎡以上	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能を上げ、建物の熱負荷を抑制している BPI _m =0.69	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.81	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加えて、節水型便器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ボード:天井、断熱材:床、壁、天井	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、取外し可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率87%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.63	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	0.14	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.23	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	